

気候危機対応研究イニシアティブ

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	<p>月例会合、研究課題マッピング、ウェビナー等を通じて研究者間および社会とのコミュニケーションが活発に行われ、気候危機に関する知見創出・発信に貢献している。</p> <p>若手研究者による自由討論や話題提供が新たな研究課題創出やPJ間連携の促進に寄与している点が評価される。</p>	<p>2025 年度成果について高く評価をいただきありがとうございます。</p> <p>若手研究者からの話題提供による自由討論企画を評価いただきありがとうございます。話題提供者となる若手の負担にも配慮しつつ、次期中期計画での関連の取組の継続について検討いたします。</p>
今後への期待など	<p>CDR を含む技術選択の位置づけや、即効性・共便益の高い省エネ、再エネ、NbS 等の優先領域をどう社会に実装するか、統合的なメッセージの発信強化が期待される。</p> <p>若手研究者の話題提供の取り組みはPJ間コミュニケーションのために大変有効と思うので、継続されるとよい。</p>	<p>技術選択の位置づけや優先領域の実装については、メッセージの強化が必要とのご指摘について、次期中期でも引き続き検討を続けます。</p> <p>若手の負担にも配慮しつつ、次期中期計画での関連の取組の継続について検討いたします。</p>

気候危機対応研究イニシアティブ

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	若手研究者を中心とした活発な議論や自由討論が展開され、PG・PJ間および研究機関間の連携創出に大きく寄与した点は高く評価される。	若手研究者が参加しやすい仕組み、外部資金研究提案を促進する企画などが必要であるという意見は、現プログラム総括からも示されています。次期中期計画での気候危機イニシアティブを継ぐ活動の見直しに際して参考にさせていただきます。
	適応・緩和・自然共生・資源循環を横断する「調整・翻訳の場」として機能し、新規連携や外部資金獲得（S-21等）につながった点は意義が大きい。	評価いただきありがとうございます。次期中期計画では、連携がより機能的なものとなるように、工夫を重ねるよういたします。
今後への期待など	PG間、PJ間でのアウトリーチ／インテークによって何ができるようになったのかがメンバー全員に見える化される仕組みがあると、共通理解が進んでさらなる連携も生まれてくるのではないだろうか。	ご助言のように「見える化の仕組み」については、連携の動機付けにとって有効に思えます。次期中期計画での気候危機イニシアティブを継ぐ活動の見直しに際して参考にさせていただきます。
	さまざまな連携した取り組みが行われており、社会に対する発信も行われている。これらの取り組みが継続され、SNSなども活用し多くの世代に対して発信されることを期待したい。	SNS活用や対外発信については、連携推進部対話オフィスと共同で行うことも検討し、対話オフィスのこれまでの経験も活かした広い世代向けの発信に努めます。
	つくば市の特徴を活かした研究機関間の連携や次期中長期計画でのPG間連携の継続・強化が期待される。また、広範な研究者対象のもの、分野横断だがテーマを絞ったものを並行して実施し外部資金獲得を目指す等、モチベーションを維持するような方策も重要と考えられる。	つくば市にある他研究機関との連携活動については、次期中長期にても複数のプログラムや分野研究にて継続実施されることが予想されるので、その情報共有の仕組みの検討に努めます。また、外部資金研究提案を促進する企画などが必要であるという意見は、現プログラム総括からも示されています。次期中期計画での気候危機イニシアティブを継ぐ活動の見直しに際して参考にさせていただきます。